

# DTP製品と一体型データ変換ソフト

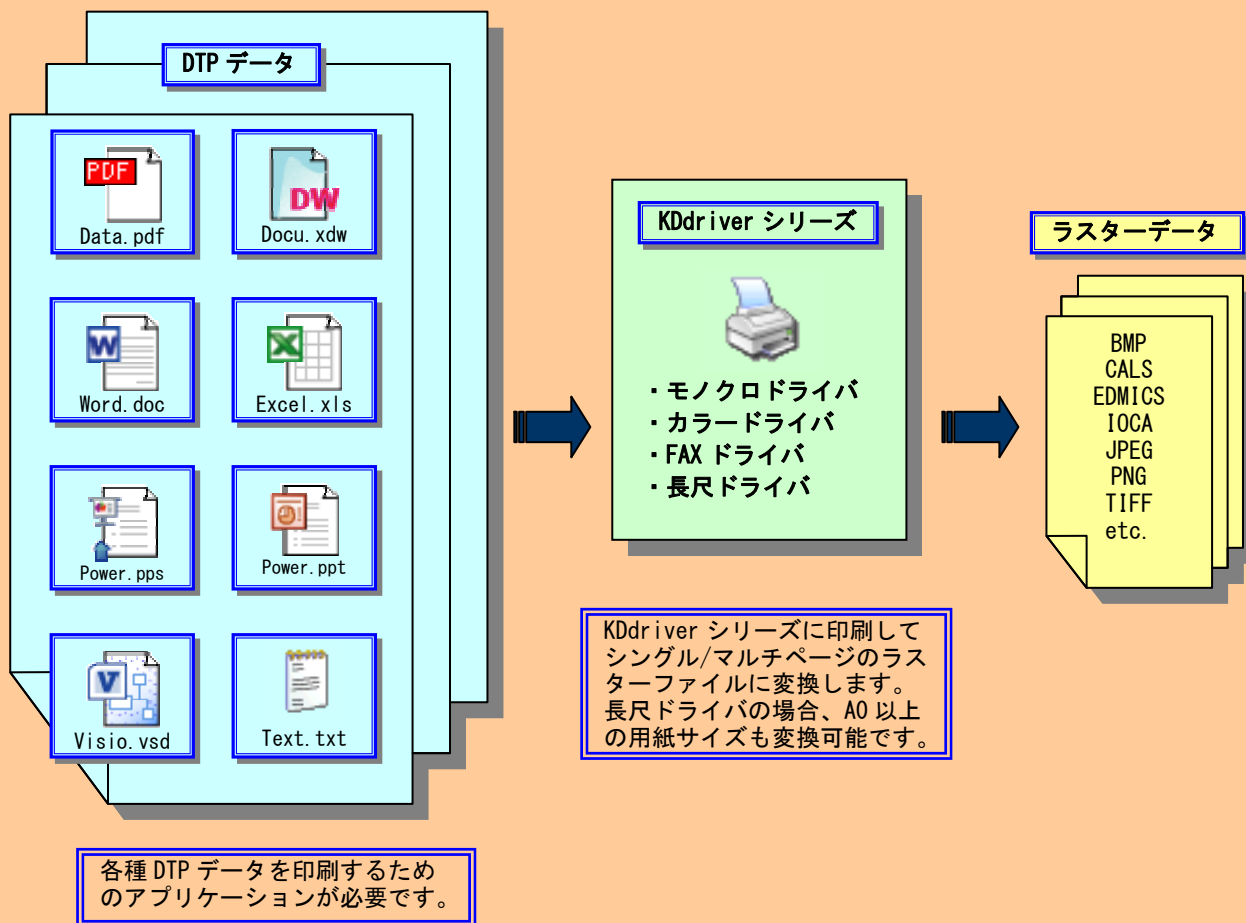
## -DTP3RS(C)/DTP3RSL/DTPTORS(C)/DTPTORSL-



Kernel Computer System  
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部  
〒221-0056  
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル  
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501  
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>

各種 DTP データを KD ドライバに印刷することで、ラスター(イメージ)データに変換します。  
DTP3RS(C)/DTP3RSL には弊社独自の PDF 変換ツールが搭載されています。  
DTP3XX、DTPTOXX の PDF/ラスター変換に Acrobat ライセンスは不要です。



### ◆特長

- ・ Windows プリンタ ドライバである弊社製品「KDdriver」を経由することによって高品質な変換結果を得ることができます。
- ・ コマンドライン形式 (DOS 操作)、GUI 形式 (画面操作) の双方をサポートしたアプリケーションになっています。1つの製品で両形式使用することができます。システムへの組み込みや、標準機能としてバッチファイルを利用したフォルダ単位の一括変換が可能です。
- ・ オプション製品と組み合わせることによって、指定フォルダにデータを送るだけであらかじめ設定された DTP から各種サポートフォーマットへ自動的に変換を行う自動監視付き変換等が可能です。
- ・ DTP3XXX では PDF データの用紙サイズの反映、セキュリティ解除が可能です。
- ・ DTP3XXX の PDF 印刷機能を使用した PDF/ラスター変換では印刷ページの指定が可能です。
- ・ XDW データの用紙サイズの反映が可能です。
- ・ PDF データの変換で Adobe Acrobat ライセンスが不要です。

## ◆概要

各種 DTP データ (Microsoft Office、PDF、DocuWorks 等) をラスター (イメージ) データへ変換します。出力フォーマットの詳細につきましては、9 ページをご覧ください。

### 【入力対応 DTP データ】

DTP データ	ファイル種類 (拡張子)
Microsoft Office Word データ	doc, rtf, dot, txt, docx, dotx, docm, dotm
Microsoft Office Excel データ	xls, xlw, xls, csv, xlt, xlsx, xltx, xlsx, xlsm, xltm
Microsoft Office PowerPoint データ	ppt, pps, pot, pptx, potx, pptm, potm, ppsx, ppsm
Microsoft Office Project データ	mpp, mpt
Microsoft Office Visio データ	vsd, vst, vss, vsdx, vsdm
PDF データ	pdf
DocuWorks データ	xdw, xbd
HTML データ・XML データ	html, xml
XPS データ	xps

※上記以外のファイルについては正式に対応していません。

### 【DTP データアプリケーション】

アプリケーション	対応バージョン
Microsoft Office Word ※	2000/XP/2003/2007/2010/2013/2016
Microsoft Office Excel ※	2000/XP/2003/2007/2010/2013/2016
Microsoft Office PowerPoint ※	2000/XP/2003/2007/2010/2013/2016
Microsoft Office Project ※	2002/2003/2007/2010/2013/2016
Microsoft Office Visio ※	2000/2002/2003/2007/2010/2013/2016
FujiXerox DocuWorks ※	6/7/8.0
弊社 PDF 変換ツール PDF ビューア	
標準ブラウザ (印刷機能が必要)	

※ データ閲覧用として無償配布されているビューアでは動作しません。それぞれの有償の製品版が必要です。

※ 64 ビット版の Microsoft Office, Microsoft Visio, Microsoft Project を利用した変換はサポートしていません。64 ビット版 OS であっても 32 ビット版アプリケーションをご利用ください。

## ◆注意事項

- ・アプリケーションの印刷機能を利用してファイルを作成するため、変換するファイルのアプリケーションが必要になります。
- ・印刷に使用するアプリケーションで正常に印刷できる必要があります。アプリケーションで対応していないバージョンのデータ等は正常に印刷できない場合があります。
- ・出力に関するデータ処理はすべてアプリケーションに依存します。Microsoft Office でマクロ命令を利用して画面にダイアログメッセージを出力し停止するような場合や、セキュリティ機能によりパスワードを求めるダイアログメッセージを出力し停止するようなデータ等は、変換ソフトもその時点で停止するので注意していただく必要があります。
- ・DTP 製品と一体型データ変換ソフトは WindowsOS の種類によって別製品になります。WindowsOS ごとにプログラムが異なるため、ユーザーがインストールする環境の OS に合った製品を購入していただく必要があります。
- ・DTPXXX は、64 ビット環境で 32 ビットアプリケーションとして動作します。変換に使用するアプリケーション (Microsoft Office, Microsoft Visio, Microsoft Project) は 32 ビットアプリケーションである必要があります。
- ・DTP3XX には弊社 PDF 変換ツールが搭載されておりますので、インストール後そのまま PDF/ラスタ変換を行うことができます。DTPTOXX で PDF/ラスタ変換を行うためには PDF ビューア、または PDF ラスタ変換ツールを用意していただく必要があります。

## ◆製品構成

製品名	概要	定価 (税抜き)
DTP3RS (C)	各種 DTP データをラスタ (イメージ) データへ変換します。 PDF ファイルの変換で以下の機能があります。 ・用紙サイズを自動認識して元の用紙サイズでラスタファイルに変換 ・用紙の回転 ・セキュリティの解除 独自開発した PDF 変換処理 (Adobe Acrobat ライセンス不要) を搭載した製品です。	35 万円
DTP3RSL	DTP3RS 製品の長尺 KDriver に対応した製品です。 モノクロとカラー両形式の出力に対応しています。	50 万円
DTPTORS (C)	各種 DTP データをラスタ (イメージ) データへ変換します。 PDF ファイルの変換に Adobe ライセンスは不要です。	30 万円
DTPTORSL	DTPTORS 製品の長尺 KDriver に対応した製品です。 モノクロとカラー両形式の出力に対応しています。	45 万円

- ※ DTP3XX と DTPTOXX は、基本的には PDF データの変換に違いがあります。
- ※ DTP3RS/ DTPTORS は、モノクロ版 (DTPXXRS) とカラー版 (DTPXXRSC) の 2 種類があります。  
モノクロ版とカラー版同時購入の場合は、上記価格に 15 万円を加算します。
- ※ DTPTOXX で PDF ファイルを変換する場合、別途 PDF ビューア、または PDF/ラスタ変換ツールが必要です。
- ※ FujiXerox DocuWorks、Microsoft Office、PDF ビューア、PDF/ラスタ変換ツールの使用ユーザーは各メーカーのライセンス規約に準拠する必要があります。

## ◆動作環境

対応 OS :

- ・ Windows XP
- ・ Windows Server 2003
- ・ Windows Vista
- ・ Windows Server 2008
- ・ Windows Server 2008 R2
- ・ Windows 7
- ・ Windows 8
- ・ Windows 8.1
- ・ Windows Server 2012
- ・ Windows Server 2012 R2
- ・ Windows 10
- ・ Windows Server 2016

※ 文書ファイルの変換を行うアプリケーション (Microsoft Office, FujiXerox DocuWorks 等) の動作環境に依存します。

## ◆必須コンポーネント

DTPXXX をご利用いただく際に必要となるコンポーネントは以下のものです。(※)の付いたコンポーネントは一部の機能で使用します。

- ・ Microsoft Visual C++ 2008 SP1 ランタイム
- ・ .Net Framework 4 以降 (※)

「Microsoft Visual C++ 2008 SP1 ランタイム」、「.Net Framework 4 以降」がインストールされていない環境では、DTPXXX のインストーラでインストールします。

## ◆対応表

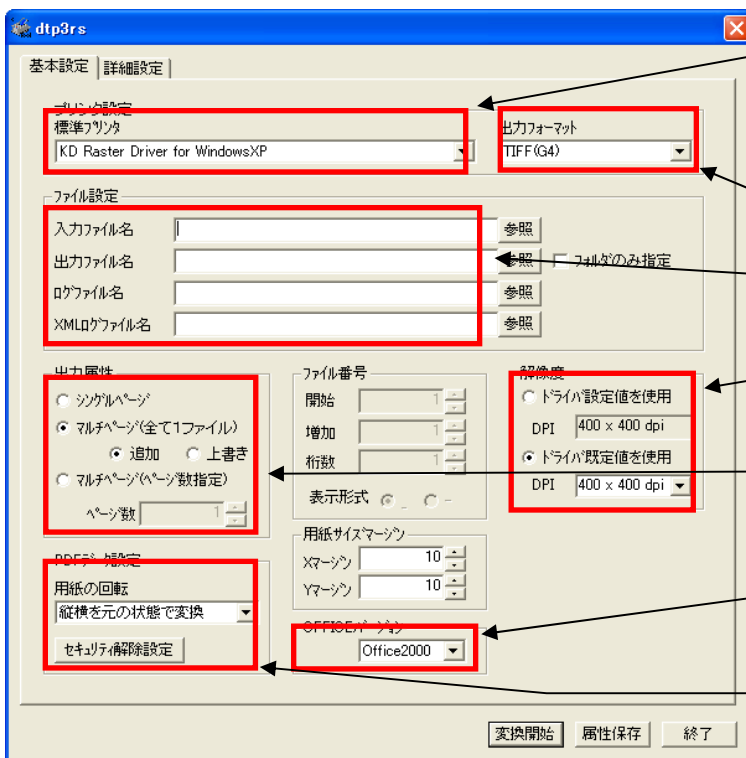
項目 製品名	PDF 用紙 サイズ反映	Adobe Acrobat ライセンス	PDF 出力	モノクロデータ 出力	カラーデータ 出力	長尺出力
DTP3RS	○	不要	△(※2)	○	×	×
DTP3RSC	○	不要	△(※2)	×	○	×
DTP3RSL	○	不要	△(※2)	○	○	○
DTPTORS	△(※1)	不要	△(※2)	○	×	×
DTPTORSC	△(※1)	不要	△(※2)	×	○	×
DTPTORSL	△(※1)	不要	△(※2)	○	○	○

※1: 変換に使用するアプリケーションの仕様に準拠。

※2: イメージ化された PDF の出力に対応。

## ◆操作方法

### 【GUI 操作基本画面】



#### プリンタドライバ名

使用可能なドライバー一覧がコンボボックスに設定されています。製品に付属しているプリンタドライバ、または指定されたプリンタドライバを設定します。

#### 出力フォーマット

出力するフォーマットを選択します。

#### ファイル設定

入力ファイル名、出力ファイル名、ログファイル名、XMLログファイル名を指定します。

#### 解像度

ドライバ設定値の解像度/既定値の解像度から選択します。

#### 出力属性

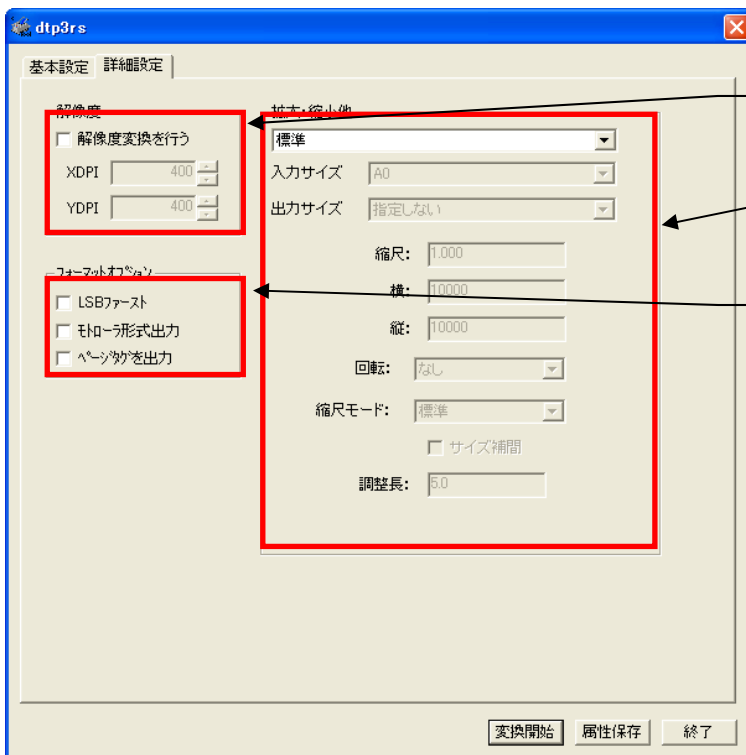
シングルページ/マルチページ(すべて1ファイル)/マルチページ(ページ数指定)出力から選択できます。

#### OFFICEバージョン

Microsoft Office データを変換する場合に指定します。

#### PDF データ設定

PDF ファイルを変換する場合、用紙の回転、セキュリティ解除についての設定を行うことができます。



#### 解像度

印刷処理後に解像度変換を行うかどうか指定します。

#### 拡大・縮小他

拡大・縮小・回転に関する設定を行います。

#### フォーマットオプション

出力フォーマットが tiff の場合、フォーマットオプションを指定できます。

※ 上図は DTP3RS の画面です。GUI は製品によって表示や使用できる項目に若干の違いがあります。

### 【GUI からの操作】

- ・プログラムを起動すると上記 GUI が表示されます。変換に必要な情報を各項目に設定していきます。設定後、実行(変換開始ボタンをクリック)すると変換が開始されます。処理が終了すると、設定内容に従った変換結果(ファイル)が出力されます。
- ・各項目の情報を保存するには属性保存ボタンをクリックします。
- ・各製品により機能が異なるため、GUI の表示や使用できる項目に若干の違いがあります。

## 【コマンドライン基本操作】

コマンドラインからの基本操作は、コマンドプロンプトを起動し、変換する入力ファイル名、出力ファイル名、変換に関する各種設定情報を入力して実行し、変換を行います。ここではDTP3RSを使用した例を挙げます。

**>実行ファイル名 入力ファイル名 -0出力ファイル名 -各オプション**

〈基本形の例〉 入力ファイル(Sample\_file.doc)を変換して、指定した出力ファイル(raster.tif)に出力。

```
C:¥>DTP3RS Sample_file.doc -0raster.tif -Udrv_in.atr -LOGtest.log
C:¥>
```

(各パラメータについて)

DTP3RS	: 実行ファイル名。
Sample_file.doc	: 変換元の入力ファイル名(入力に対応している DTP データ)。 この例では、Microsoft Word データファイル。
-0	: 出力ファイル名を指定するオプション。
raster.tif	: 出力ファイル名。
-U	: 変換属性ファイル名を指定するオプション。
drv_in.atr	: 変換属性ファイル名。
-LOG	: ログファイル名を指定するオプション。
test.log	: ログファイル名。

※インストールパスが“c:¥Program Files¥dtp3rs”の場合、〈基本形の例〉を実行されると、それぞれ指定されたファイルは、プログラム内部で以下のフルパスに置き換えられて変換を実行します。

入力ファイル名	: Sample_file.doc	→	“c:¥Program Files¥dtp3rs¥Sample_file.doc”
出力ファイル名	: raster.tif	→	“c:¥Program Files¥dtp3rs¥raster.tif”
変換属性ファイル名	: drv_in.atr	→	“c:¥Program Files¥dtp3rs¥drv_in.atr”
ログファイル名	: test.log	→	“c:¥Program Files¥dtp3rs¥test.log”

## 【コマンドラインからの操作における標準仕様】

- 変換に関する各種設定(出力フォーマット、シングル/マルチページ化、解像度など)は変換属性ファイルで行います。  
変換属性ファイルはテキスト形式のファイルです。  
そのテキスト形式のファイルに変換に関する各種設定情報を弊社で決められた項目に従って記述します。  
変換属性ファイル(テキスト形式のファイル)の編集の代わりに GUI (画面) から設定を行うこともできます。
- 使用するプログラムについてはカレントフォルダ(現在作業中のフォルダ)に対して相対/絶対パスで指定することができます。プログラムをインストールしたフォルダで作業する場合、パス名を省略できます。  
変換元ファイル(入力ファイル)、出力ファイル、変換属性ファイル、ログファイルについても同様の扱いとなります。
- 相対/絶対パスを指定する場合において、パス名に空白(スペース)がある場合には、ファイルパスの前後を “” (ダブルコーテーション) で囲ってください。
- 「-0」は出力ファイル名を指定するオプションパラメータです。  
マイナス記号とアルファベットの「オー」です。  
大文字でも小文字でもかまいませんが、全角文字は使えません。  
また、「-0」と変換後のファイル名の間には空白を入れないようにします。  
その他のオプションパラメータについても同様に扱います。
- 変換前のファイル名と変換後のファイル名に同じ名前を指定することはできません。
- エラー情報や変換状況をカレントフォルダにログファイル名(err.log)で自動的に出力します。

## ◆操作例

例 1：絶対パスを使用して、任意の変換元ファイル“c:\test\infile\Sample\_file2.pdf”を出力ファイル“c:\test\outfile\raster2.tif”に変換して出力。

```
C:\>DTP3RS "c:\test\infile\Sample_file2.pdf" -O"c:\test\outfile\raster2.tif"  
C:\>
```

例 2：任意の変換属性ファイルを作成し、入力ファイル (Sample\_file3.pdf) を出力ファイル (raster3.tif) に変換し、任意のログファイルにエラー情報や変換状況を出力。

```
C:\>DTP3RS Sample_file3.pdf -Oraster3.tif -Udrv_in_test.atr -LOG"c:\log\abcd.log"  
C:\>
```

(各パラメータについて)

drv\_in\_test.atr : 任意の変換属性ファイル名。  
"c:\log\abcd.log" : ログファイル名 (絶対パスを指定)。

※ 任意の変換属性ファイルは、初期設定の変換属性ファイルをコピーしてファイル名を変更したファイルや変換属性ファイルに使用されているパラメータを含む内容のファイルです。

例 3：アプリケーションのバージョン情報を出力。

```
C:\>DTP3RS -QV -LOGver.log  
C:\>
```

(各パラメータについて)

-QV : 実行ファイル名とバージョン情報を表示するオプション。  
ver.log : ログファイル名。

※ 「-QV」と「-LOG」を同時に指定した場合は、指定したログファイルにアプリケーションのバージョン情報を書き出します。

例 4：PDF ファイルの情報をファイル出力。

```
C:\>DTP3RS data.pdf -QS  
C:\>
```

(各パラメータについて)

-QS : PDF 情報出力ファイル名 (初期設定:pdf\_inf.txt) を指定するオプション。

※ PDF 情報出力ファイルは、PDF ファイルに関する情報を書き出して出力するファイルです。

※ PDF 情報出力ファイル名の指定が省略された場合は、初期設定のファイル名 (pdf\_inf.txt) に情報を書き出します。

※ DTP3XXX のみ指定可能な機能です。

例 5：PDF ファイルの情報を任意のファイルへ出力。

```
C:\>DTP3RS data.pdf -QSjouhou.txt  
C:\>
```

(各パラメータについて)

jouhou.txt : 任意の PDF 情報出力ファイル名。

※ DTP3XXX のみ指定可能な機能です。

例 6 : バッチファイルからの実行(フォルダ単位の拡張子による一括変換)。

バッチファイルで記述された内容の処理を実行します。

複数のファイルやフォルダ内のすべてのファイルを一括で変換する場合に使用します。

任意の名称(test.txt)で以下のようにバッチファイル(テキスト形式)を作成します。

・バッチファイルの内容

```
C:¥TEST_1¥*.pdf -OC:¥OUT_1¥*.tif
C:¥TEST_2¥*.doc -OC:¥OUT_2¥*.tif
C:¥TEST_3¥*.xls -OC:¥OUT_3¥*.tif
:
```

C:¥TEST\_1 に存在する拡張子が pdf のファイルについて、すべて拡張子を tif に変更したファイル名で変換します。拡張子 doc, xls についても同様の処理になります。  
処理の内容は同時に複数の指定を記述することができます。

・コマンドライン入力と画面表示

```
C:¥>DTP3RS -BATChtest.txt
C:¥>
```

(各パラメータについて)

- BATCh : フォルダ単位の一括変換を行うために使用するオプションパラメータ。
- test.txt : バッチファイル名。

※「-BATCh」で指定された任意のバッチファイル名(test.txt)の内容に従い処理を行います。

## ◆変換機能

主だった変換機能として以下の設定を行うことができます。これらの変換機能は GUI (画面) または 属性ファイル (テキスト形式)、オプションパラメータから指定します。各製品により機能が異なるため使用できる項目に一部違いがあります。

- ・ シングルページ/マルチページ/ページ数指定マルチページ出力指定
- ・ TIFF フォーマットオプション指定
- ・ PDF データ入力処理時、用紙サイズの自動認識  
入力データの用紙サイズを自動的に判別して出力データへ反映します。  
該当する用紙がない場合、用紙を作成して出力することができます。
- ・ PDF データ入力処理時、セキュリティの解除機能
- ・ PDF データ入力処理時、データ回転機能
- ・ DocuWorks データ入力処理時、用紙サイズの自動認識
- ・ ログファイルの出力
- ・ バッチ処理(フォルダ単位の拡張子による一括変換)
- ・ ラスターフォーマット指定
- ・ 解像度指定
- ・ OFFICE データの印刷ページ指定
- ・ PDF データの印刷ページ指定(DTP3XX の PDF 印刷機能を使用した PDF/ラスター変換)



## ◆出力フォーマット

出力対応ラスタフォーマット名一覧表(○：出力可、×：出力不可)

フォーマット	モノクロ版	カラー版	FAX仕様版	長尺出力対応版	補足説明
TIFF (ClassF:MH)	×	×	○	×	マルチページが可能
TIFF (ClassF:MR)	×	×	○	×	マルチページが可能
TIFF (ClassF:MMH)	×	×	○	×	マルチページが可能
TIFF (非圧縮)	○	○	○	○	マルチページが可能
TIFF (PackBits)	○	○	○	○	マルチページが可能
TIFF (G3_1D)	○	×	○	○	マルチページが可能
TIFF (G3_MH)	○	×	○	○	マルチページが可能
TIFF (G3_MR)	○	×	○	○	マルチページが可能
TIFF (G4)	○	×	○	○	マルチページが可能
TIFF (LZW)	○	○	○	○	マルチページが可能
TIFF (JPEG:低品質)	×	○	×	○	フルカラーのみ
TIFF (JPEG:中品質)	×	○	×	○	フルカラーのみ
TIFF (JPEG:高品質)	×	○	×	○	フルカラーのみ
TIFF (JPEG:Imaging 低品質)	×	○	×	○	フルカラー(Windows/Imaging 専用)
TIFF (JPEG:Imaging 中品質)	×	○	×	○	フルカラー(Windows/Imaging 専用)
TIFF (JPEG:Imaging 高品質)	×	○	×	○	フルカラー(Windows/Imaging 専用)
XWD (非圧縮)	○	○	○	○	
SunRaster (非圧縮)	○	○	○	○	
SunRaster (MMR)	○	×	○	○	
SunRaster (RLE)	○	○	○	○	
CALS (G4)	○	×	○	○	
FAX (MMR)	○	×	○	○	
FAX (MR)	○	×	○	○	
FAX (MH)	○	×	○	○	
IOCA (非圧縮)	○	×	○	○	マルチページが可能
IOCA (IBM_MMR)	○	×	○	○	マルチページが可能
IOCA (G4)	○	×	○	○	マルチページが可能
BMP (非圧縮)	○	○	○	○	
EDMICS (MMR)	○	×	○	○	
EDMICS (RLC)	○	×	○	○	
MIEL (MMR)	○	×	○	○	
JPEG (低品質)	○	○	○	○	
JPEG (中品質)	○	○	○	○	
JPEG (高品質)	○	○	○	○	
FX Raster (3色)	○	○	○	○	マルチページが可能
PNG	○	○	○	○	
GIF	○	○	○	○	
HP-RTL (非圧縮(line))	○	○	○	○	マルチページが可能
HP-RTL (非圧縮(block))	○	○	○	○	マルチページが可能
HP-RTL (PackBits)	○	○	○	○	マルチページが可能
HP-RTL (MH)	○	×	○	○	マルチページが可能
HP-RTL (MR)	○	×	○	○	マルチページが可能
HP-RTL (MMR)	○	×	○	○	マルチページが可能
PDF	×	○	×	○	マルチページが可能
PDF (MMR)	○	×	○	×	マルチページが可能
PDF (FLATE)	○	○	○	○	マルチページが可能
SVG (PNG)	○	○	○	○	マルチページが可能
SVG (JPEG:低品質)	×	○	×	○	マルチページが可能
SVG (JPEG:中品質)	×	○	×	○	マルチページが可能
SVG (JPEG:高品質)	×	○	×	○	マルチページが可能
PostScript (Level1)	○	○	○	○	マルチページが可能 (非圧縮)
PostScript (非圧縮)	○	○	○	○	マルチページが可能 (Level2)
PostScript (RunLength)	○	○	○	○	マルチページが可能 (Level2)
PostScript (G4)	○	×	○	○	マルチページが可能 (Level2)
PostScript (JPEG:低品質)	×	○	×	○	マルチページが可能 (Level2)
PostScript (JPEG:中品質)	×	○	×	○	マルチページが可能 (Level2)
PostScript (JPEG:高品質)	×	○	×	○	マルチページが可能 (Level2)
EPSF	○	○	○	○	
NON (非圧縮)	○	○	○	○	

## ◆制限事項

### DTP/ラスタ変換の共通制限事項

- ・ DTPXXX は多重起動(本製品を同時に複数実行)することはできません。
- ・ 以下の条件で DTPXXX を使用する場合、「Administrator」または「管理者として実行」で実行する必要があります。
  - Windows XP、Windows Server 2003 での使用時の一部機能
  - DTPXXX の機能で KDriver の「プロパティ」-「詳細設定」の「詳細な印刷機能を有効にする」項目の変更
  - Windows 8 64bit、Windows 8.1 64bit、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、Windows 10、Windows Server 2016 での「XPS の印刷」、「Excel の XPS 経由の印刷機能」
- ・ DTPXXX はログインされた状態で使用してください。ログオフ状態では正常に動作しません。ロック状態であれば動作します。
- ・ DTPXXX は処理時に「通常使うプリンタ」を変更する場合があります。DTPXXX 使用時には印刷処理を行わないようにしてください。
- ・ SJIS で表現できないファイル名には対応していません。
- ・ Excel データの表示と DTP 製品で変換(印刷)した結果では、印刷範囲やセルの幅高が変更される場合があります。これは使用するプリンタドライバの解像度設定などが異なることにより文字列の改行位置や改ページ位置、縦横の縮尺が異なる場合があるためです。
- ・ DTPXXX は、変換対象となるファイルに関連付けられていて、ファイルを開くことのできるアプリケーションの印刷機能を利用して変換を行う機能があります。この機能を利用する場合は、ご利用環境にて各アプリケーションの印刷機能が正常に動作することが前提条件になります。
- ・ DTPXXX が異常終了した場合には、本製品で使用するアプリケーションがタスク上に残る場合があります。その場合はタスクマネージャ等で終了させてください。  
※タスク上に残る可能性のある、関連アプリケーションは以下のとおりです。
  - infoProc.exe
  - ProcTimerKill.exe
- ・ 本アプリケーションは弊社製品の KDprintdrv\_batch、kddrvbatchc、KDriver for Windows を使用します。ご使用の際には、KDriver の操作説明書の注意事項もご一読ください。
- ・ 変換する文書ファイルにマクロ機能やパスワードの入力等で何らかのダイアログが表示される場合には、変換処理が止まる場合があります。ダイアログ回避設定で対処するかマクロやパスワードを削除して再起動してください。
- ・ DTPXXX はサービス上で実行することはできません。また、サービス上で実行しているアプリケーションからの呼び出しにも未対応です。
- ・ インストールマシン以外のネットワーク上のマシンから、リモート呼び出しによる変換はできません。
- ・ html や xml ファイルを変換する際に背景として設定している画像が変換されません。関連付けられているブラウザの印刷機能を使用して印刷を行うため、ブラウザへの表示はされていても出力されない場合もあります。また、指定しているファイルに印刷アクションが設定されて無ければ変換することはできません。エクスプローラで変換したいファイルを選択し、右ボタンで表示されるポップアップメニューに「印刷」の項目が存在することが前提です。
- ・ 属性ファイルで指定する拡張子と標準入力ファイルのファイル形式が異なる場合、正常に処理することができませんのでご注意ください。
- ・ シングルページでの標準出力を行った場合、先頭の 1 ページのみが標準出力されます。
- ・ Visio2003 ファイルを変換する際、正常に変換できない場合があります。正常に印刷できない場合は、一度 Visio ファイルを開き「ファイル」メニューの「印刷」で印刷ダイアログを表示し、プリンタの「プロパティ」→「詳細設定」の設定を行ってから、再度変換を行ってください。
- ・ DTPXXX 動作中に LOG ファイル等の関連ファイルへのアクセス(参照、コピー等)は行わないでください。
- ・ Windows の OS を長時間(数ヶ月単位)再起動せずに使用すると環境により Windows の動作が不安定になる場合があります。これは、弊社アプリケーションのみの問題ではなく、Windows を含む、利用されるすべてのソフト・ドライバの複合要因であり、このような現象が発生した場合、原因の特定および回避はすべてのアプリケーションが関係するため、対応が不可能です。長期間連続運用を行う場合、上記の問題が発生することがありますので、定期的に Windows の再起動を奨励致します。
- ・ 属性項目「WAIT」の設定によって強制終了した場合、変換データに関連付けられたアプリケーションが起動されたままになることがあります。その場合は手動にて終了させてください。  
(例) XDW : dwviewer.exe  
DOC : WINWORD.exe

- ・ 出力ファイル設定「-0」で指定するフォルダは、既存のフォルダを指定してください。
- ・ パラメータに“%”（パーセント記号）は使用できません。
- ・ DTPXXX は 64 ビット環境で 32 ビットアプリケーションとして動作します。変換処理に使用するアプリケーション (Microsoft Office, Microsoft Visio, Microsoft Project) は 32 ビットアプリケーションである必要があります。64 ビットアプリケーションの場合の変換には対応しておりません。
- ・ ファイル変換する文書ファイルの対象となる MS-OFFICE のアプリケーションは、終了させてください。また、変換中にも MS-OFFICE のアプリケーションを起動することはできません。起動した場合には、エラーになる場合があります。
- ・ MS-OFFICE のファイルを変換中に処理が途中で異常終了した場合には、各 KDriver の設定ファイル (xxxx.ini) の内容が変更されています。再実行する前には、必ず、KDriver の設定内容を確認してください。また、アプリケーションがタスク上に残っている場合は、タスクマネージャで終了させてください。
- ・ MS-POWERPOINT のアプリケーションの初期表示をフルスクリーン表示すると、変換時にアプリケーションが画面上に表示されますので、フルスクリーンの設定をオフにしてください。
- ・ 変換する文書ファイルがインストールされている MS-OFFICE のバージョンと異なる場合は、上位のバージョンの MS-OFFICE をインストールしてください。ただし、バージョンの違いにより正常に変換されない場合もありますので注意してください。
- ・ MS-OFFICE のアプリケーション上で発生したエラーについては対応していません。タスクマネージャから処理を中止してください。
- ・ データの存在しないファイル (空のファイル) を変換することはできません。
- ・ MS-WORD のファイルは、保存されているレイアウト (印刷レイアウト/アウトライン等) で変換されます。また、印刷ダイアログの「印刷対象」の設定が「文書」以外に設定されているファイルを変換した場合は、変換を行う際の設定 (「印刷対象」=「文書」で固定) と異なるために変換結果が実際の印刷結果と異なる場合があります。
- ・ ファイル属性のアーカイブ情報の設定がされていない場合には、変換されません。
- ・ 変換 (印刷) 中に処理を途中でキャンセルすることはできません。また、変換 (印刷) 中には、他のオペレーション等は行わないでください。エラーが発生する場合があります。
- ・ MS-OFFICE 2003 以降で作成されたアクセス制限が設定されたファイルを変換することはできません。
- ・ 文書ファイルに「読み取り専用」の属性が設定されている場合には、属性を無効にする必要があります。
- ・ MS-EXCEL ファイルのページ設定の印刷品質が空白 (通常はプリンタの解像度が表示) になっているファイルについては、変換時にエラーが発生する場合や正常に変換されない場合があります。エラーが発生した場合には、印刷品質の解像度を設定して保存してから変換を行ってください。
- ・ MS-OFFICE 2007 以降の文書ファイル (docx, dotx, docm, dotm, xlsx, xltx, xlsx, xltm, pptx, potx, pptm, potm) を変換する場合には、変換対象ファイルを開くことが可能であり、印刷が可能であるバージョン (MS-OFFICE 2007 以降) がインストールされている必要があります。
- ・ MS-EXCEL ファイルを変換する際には、変換するシート名を指定することはできません。
- ・ 変換後のイメージファイルの解像度が、変換時に設定した解像度と異なる場合があります。この現象は、MS-OFFICE の文書ファイルを新規に作成したマシンの規定値として設定されていたプリンタドライバの解像度を文書ファイルが保持しているためですが対応することはできません。
- ・ 変換されたラスターファイルの内容については、変換を行った際に使用した各アプリケーション (MS-OFFICE 等) で、変換時に使用した KDriver for Windows で印刷した結果に依存します。変換結果に問題がある場合には、文書ファイルを各アプリケーションで開いて KDriver 経由で印刷を行い、変換されたファイルを確認してください。
- ・ MS-OFFICE 2013 環境ではマルチページ画像が挿入されているファイルを変換することはできません。
- ・ 変換環境に複数の MS-OFFICE バージョンが共存している場合、動作保証できません。
- ・ エクスプローラでプレビューウィンドウの表示を設定していた場合、タスクマネージャに Office のプロセスが残ることがあります。そのため変換処理が停止することがあります。
- ・ Office による PDF/XPS 保存を使用した機能を使用する場合について
  - ・ Microsoft Excel 2007 以降がインストールされている必要があります。また、「PDF または XPS」への変換機能が利用可能である必要があります。
  - ※ Excel 2007 では「PDF または XPS」への変換機能がインストールされていない場合があります。
  - ※ 「PDF または XPS」への変換機能がインストールされていない場合は、ご利用の Office に対応した Microsoft PDF/XPS 保存アドインを、Microsoft Office のホームページよりダウンロードしてインス

トールしてください。

## DTP3RS (C)/DTP3RSL 変換の制限事項

- ・ DTP3XX の PDF 印刷機能を使用した PDF/ラスター変換と OFFICE データの変換以外ではページ番号を指定して変換することはできません。
- ・ PDF ファイルのセキュリティ設定を解除するにはパスワードが必要です。
- ・ DocuWorks ファイルを変換(マルチページ/シングルページともに)、各種ファイルをマルチページ指定での変換時に、変換結果のラスター情報を出力しますが、その他の場合(Office データをシングルページ出力等)には、ラスター情報は出力しません。
- ・ PDF からイメージを抽出する方法での PDF/ラスター変換には以下の制限があります。
  - ・ Acrobat X で拡張された機能が使用された PDF は変換できません。
  - ・ PDF ポートフォリオは変換できません。
  - ・ ページの縦か横が 10m を超える PDF は変換できません。
  - ・ JPXDecode (JPEG 2000) のうち拡張機能が使用されたイメージは、PDF から抽出することができません。
  - ・ PDF 上で回転を使用して表示されているイメージを抽出した場合、基本的には PDF 上の表示と同じ向きになりますが、回転や歪みの内容によっては、PDF 上の表示と見た目が異なる状態で抽出される場合があります。
  - ・ タイリングパターンの一部として表示されているイメージは、PDF から抽出されません。
  - ・ 使用されている色空間によって、変換後に色合いが変わることがあります。
- ・ DTP3XX の PDF 印刷機能を使用した PDF/ラスター変換には以下の制限があります。
  - ・ Acrobat X で拡張された機能が使用された PDF は変換できません。
  - ・ PDF ポートフォリオは変換できません。
  - ・ ページの縦か横が 10m を超える PDF は変換できません。
  - ・ 外観の情報を持たない一部の注釈が変換されません。
  - ・ 一部のシェーディングが正しく変換されません。
  - ・ 一部のブレンドモードに対応していないため、透過した図形の色合いが微妙に異なる場合があります。
  - ・ JavaScript を利用した機能は有効になりません。
  - ・ PDF で指定されたフォントがインストールされていない場合に、一部の文字が正しく変換されないことがあります。
  - ・ PDF 内のイメージに対して以下の制限があります。
    - ・ JPXDecode (JPEG 2000) のうち拡張機能が使用されたイメージは、PDF から抽出することができません。
    - ・ 使用されている色空間によって、変換後に色合いが変わることがあります。

## DTPTORS (C)/DTPTORSL 変換の制限事項

- ・ PDF データにセキュリティ設定をされていると変換することができません。
- ・ DocuWorks ファイルを変換(マルチページ/シングルページともに)、各種ファイルをマルチページ指定での変換時に、変換結果のラスター情報を出力しますが、その他の場合(Office データをシングルページ出力等)には、ラスター情報は出力しません。
- ・ OFFICE データの変換処理を除いて、ページ番号を指定して変換することはできません。